



遅れて開催された卒業式に出席し、記念撮影する2019年度の卒業生＝11日午前、松山市桑原3丁目

私たちの卒業式やっと

松山東雲
女子大・短大
19年度式典実現

松山東雲女子大・短大（松山市桑原3丁目）は11日、新型コロナウイルスの影響で中止となっていた2019年度の卒業式を開いた。当時の卒業生47人が、卒業から3年半余りたって実現した待望の式典に万感

の思いで臨んだ。

20年3月は県内で新型コロナウイルスの感染者が開始されたころで、卒業式は開催日を目前にして中止となった。教職員でつくるホームカミングデー実行委員会が、大学祭「東雲祭」（11・12日）に合わせて企画。19年度の大学と短大の卒業生計350人に案内状を送り、47人が出席した。

式では一人一人の名前が読み上げられ、拍手で祝福した。女子大心理子ども学科を卒業した宮下夕希さん（26）が「当時は寂しい思いをしたが、友人たちと悩みを共有して乗り越えることができた」と振り返り、「これから社会全体の幸福の実現に向け尽力する」と決

意を述べた。

式の後には茶話会も開かれ、旧交を温め合った。新居浜市から参加した短大保育科卒業生の篠原めい子さん（23）は「やっと卒業できたという気持ち。出産を控えて大変な時期だが、頑張ろうという気持ちになった」と笑顔で話した。

卒業式の中止は大学、短大とも開学以来初めてで、19年度の卒業生は個別に卒業証書を受け取っていた。実行委員長森日出樹副学長（60）は「準備をしていた学生たちにかわいそうな思いをさせ、ずっと心残りに思っていた。式を開催できてほっとした」と思いを語った。

（杉本賢司）